都市再生整備計画

中心拠点地区

福岡県　那珂川市

令和6年12月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォーカブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式（1）-②

都道府県名	福岡県	市町村名	那珂川市（なかがわ）	地区名	中心拠点地区（ちゅうしんきょてん）	面積	259.7 ha

計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 8 年度	交付期間	令和 4 年度 ～ 令和 8 年度

目標

中心拠点に相応しい魅力ある市街地環境を形成し、誰もが安心して快適に暮らせるまちづくり
目標：都市機能誘導区域内における交通ネットワークの強化
目標：地区特性に応じた暮らしやすい環境の形成

目標設定の根拠

都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針）

本市の都市構造は市の北部と南部で大きく異なっており、北部では高密度な市街地が形成されており、市街地の人口は飽和状態に近くなっている。そのため、土地の高度利用を促進するとともに将来的な市街地の需要等を考慮したうえで、都市機能が集積する拠点として機能し、公共交通ネットワークの維持・充実に繋がる新市街地の創出を検討する。また、南部では、豊かな自然環境、歴史、景観、レクリエーション施設、観光施設などの様々な要素の回遊性を高めることで、都市としての魅力と一体感を創出する。

そのため、憩いの場となる都市公園の整備を進めることで、地区特性に応じた暮らしやすい環境の形成を図る。また、交通結節点である西鉄那珂川営業所を含む土地区画整理事業による市街地開発が進んでおり、都市機能の集積・拡充を図るとともに、道路交通網の充実による交通利便性の向上を図る。

まちづくりの経緯及び現況

【経緯】
・昭和31年に南畑村、岩戸村、安徳村の3村が合併し、当時の那珂川町が誕生
・昭和後期に複数の土地区画整理事業が行われ、市北部において福岡都市圏のベットタウンとして住宅地を形成
・平成2年4月にJR博多南線が開業
・平成21年10月にコミュニティバス「かわせみ」を運行開始、平成23年4月には市南部にも路線を拡大
・平成22年に策定した「那珂川町地域公共交通総合連携計画」を、平成27年に「那珂川町地域公共交通網形成計画」として改定
・平成27年の国勢調査で人口5万人を達成し、平成30年10月1日に市政施行（那珂川市が誕生）
・令和2年7月に「那珂川市立地適正化計画」を策定し、令和3年9月に改訂
・令和3年4月に那珂川市都市計画マスタープラン（第4期）を策定
・令和3年4月に整備計画区域の一部（道善・恵子地区）を市街化区域に編入、同地区に土地区画整理事業施行区域を決定
【現況】
・誘導区域内は高密度な市街地が形成されている
・将来的な高齢化に伴い公共交通の必要性が一層高まると予測されるが、現在は路線バスの利用者数が減少傾向にある
・地区特性に応じた暮らしやすい環境形成のため、昭和後期の土地区画整理事業により整備された都市公園について、市民のニーズの変化に対応した再整備が求められている

課題

・将来的な人口減少・高齢化に備えて中心拠点内の人口密度を維持するため、公共交通及び都市機能の維持向上により拠点内の利便性を高める必要がある
・市内の主要な公共交通であるバス路線を維持するため、公共交通の利便性を高め、利用を促進する必要がある
・都市公園について、地区特性に応じた整備が不十分である

将来ビジョン（中長期）

【那珂川市総合計画】
市の将来像を「笑顔で暮らせる自然都市なかがわ～これからも住み続けたい協働のまちを目指して～」とし、市民の想いをまちづくりにつなげていくため、将来像を構成するまちづくりのテーマを5つ掲げ、その内の1つである「自然と調和した快適に暮らせるまちづくり」では、重点施策として「新たな市街地空間の創出」「公共交通網の整備」を定めている。
【那珂川市都市計画マスタープラン】
将来の都市構造として「各拠点の強化と、拠点間の連携や拠点へのアクセス強化によるコンパクト＋ネットワークの都市構造」を掲げ、目指すべき都市のすがたとして「拠点の明確化と連携によるコンパクトな賑わいのあるまち」「少子・高齢化に対応したまち」「誰もが安心して快適に暮らせるまち」を定めている。
【那珂川市立地適正化計画】
まちづくりの方針として「まちの質を高める拠点の形成による市街地の利便性の向上」「拠点間のネットワーク確保による市内外の公共交通網の形成」「豊かな自然環境と共生する都市構造の形成」を定めている。

都市構造再編集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

・本市の拠点として、中心拠点、行政・福祉拠点、地域拠点、レクリエーションゾーンを設定し、各拠点の強化、拠点間の連携及び拠点へのアクセス強化を図り、コンパクト＋ネットワークの都市構造を目指している。
・市街地内の交通結節点であるJR博多南駅及び西鉄那珂川営業所、文化・子育て施設が集積するミリカローデン那珂川の3つの核となる施設を包括した範囲を中心拠点とし、商業、子育て機能、公共交通等の都市機能のさらなる充実により、利便性の高い居住環境の形成を図る。
・市役所周辺を行政・福祉拠点とし、様々な行政・福祉サービスの強化を図る。
・山田交差点周辺及び南畑小学校周辺を地域拠点とし、南部地域の住民の生活・コミュニティの拠点として、生活に係る施設の維持や北部市街地へのアクセス拠点としての機能強化を図る。
・中ノ島公園や五ケ山クロス等をレクリエーションゾーンとし、水や緑の自然環境を活用し市内外の観光交流を呼び込む憩いや安らぎの場としての機能を確立する。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

特になし

目標を定量化する指標

指　標	単 位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
西鉄バス那珂川営業所の乗降者数	人／年	バス停「西鉄バス那珂川営業所」の1日当たりの乗降者数	交通結節点である西鉄バス営業所への乗り換え利便性の強化により、バス停「那珂川営業所」乗降者数の維持を目指す	255,500人／年	R2年度	298,237人／年	R8年度
コミュニティバスの利用者数	人／年	コミュニティバス「かわせみ」路線のうち、西鉄バス那珂川営業所を経由する路線の年間利用者数	交通結節点である西鉄バス営業所への乗り換え利便性の強化により、コミュニティバス利用者数の維持を目指す	171,230人／年	R2年度	257,900人／年	R8年度
住み続けたいと評価する市民の割合	%	住民意識アンケート「那珂川市に住み続けたいと思いますか」に対する市民の割合	地区特性に応じた暮らしやすい環境の形成により、市に住み続けたい割合を高め、定住化を目指す	53.50%	R3年度	55%	R8年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
【都市機能誘導区域内における交通ネットワークの強化】 ・交通結節点（西鉄那珂川営業所周辺）において、路線バス、コミュニティバス、デマンド交通車両、タクシー等の多様な公共交通機関が乗り入れ可能な交通広場及び道路を整備することで、交通結節点としての機能向上を図る。	【基幹事業】 ●道路（道善恵子1号線） ●道路（交通広場）
【地区特性に応じた暮らしやすい環境の形成】 ・道善恵子地区1号・2号街区公園は、土地区画整理事業により人口増加が見込まれる道善・恵子地区の交流の場となるよう、地域の意見を聞きながら地域に求められ、愛着のある身近な公園として整備する ・中心拠点地区内の都市公園をリニューアルし、誰もが安心して利用できる魅力的な憩いの場を形成する	【基幹事業】 ●公園（道善恵子地区1号街区公園整備） ●公園（道善恵子地区2号街区公園整備） ●公園（都市公園（谷口公園）再整備） ●公園（都市公園（大町公園）再整備） ●公園（都市公園（春田公園）再整備） ●公園（都市公園（鷹取公園）再整備） ●公園（都市公園（野入公園）再整備）

その他

【まちづくりの住民参加】
道善・恵子地区土地区画整理事業（組合施行）と連携し、都市機能が集積した利便性の高い魅力あるまちづくりに向けた協議を行っている。

【那珂川市立地適正化計画との整合】
那珂川市立地適正化計画と整備方針で合致する施策は以下。
■都市機能誘導区域内における交通ネットワークの強化（P41）
　〇交通結節点における道路及び交通広場の整備
■地区特性に応じた暮らしやすい環境の形成（P38）
　〇都市公園の整備・維持充実

様式（1）-④-1

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項（都市構造再編集中支援事業）

交付対象事業費	886	交付限度額	443.0	国費率	0.5

（金額の単位は百万円）

基幹事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比 B／C
道路		道善恵子1号線	那珂川市	直	L=370m	R4	R6	R4	R6	350.0	350.0	350.0		350.0	－
道路		交通広場	那珂川市	直	A=0.20ha	R5	R6	R5	R6	286	286	286		286	－
公園		道善恵子地区1号街区公園	那珂川市	直	A=0.17ha	R5	R7	R5	R7	71	71	71		71	－
公園		道善恵子地区2号街区公園	那珂川市	直	A=0.11ha	R5	R5	R5	R5	55	55	55		55	－
公園		谷口公園	那珂川市	直	A=0.15ha	R4	R4	R4	R4	12	12	12		12	－
公園		大町公園	那珂川市	直	A=0.20ha	R5	R5	R5	R5	17	17	17		17	－
公園		春田公園	那珂川市	直	A=0.32ha	R8	R8	R8	R8	35	35	35		35	－
公園		鷹取公園	那珂川市	直	A=0.21ha	R8	R8	R8	R8	31	31	31		31	－
公園		野入公園	那珂川市	直	A=0.24ha	R8	R8	R8	R8	29	29	29		29	－
古都保存・緑地保全等事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設															
地域生活基盤施設															
高質空間形成施設															
高次都市施設	地域交流センター														
	観光交流センター														
	テレワーク拠点施設														
	子育て世代活動支援センター														
	複合交通センター														
誘導施設	医療施設														
	社会福祉施設														
	教育文化施設														
	子育て支援施設														
既存建造物活用事業															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
バリアフリー環境整備事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業															
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										886	886	886	0	886	…A

提案事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
地域創造支援事業														
事業活用調査														
まちづくり活動推進事業														
合計										0	0	0	0	0 …B

（参考）都市構造再編集中支援事業関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに○） 直轄	補助	地方単独	民間単独	事業期間 開始年度	終了年度	全体事業費
合計											0

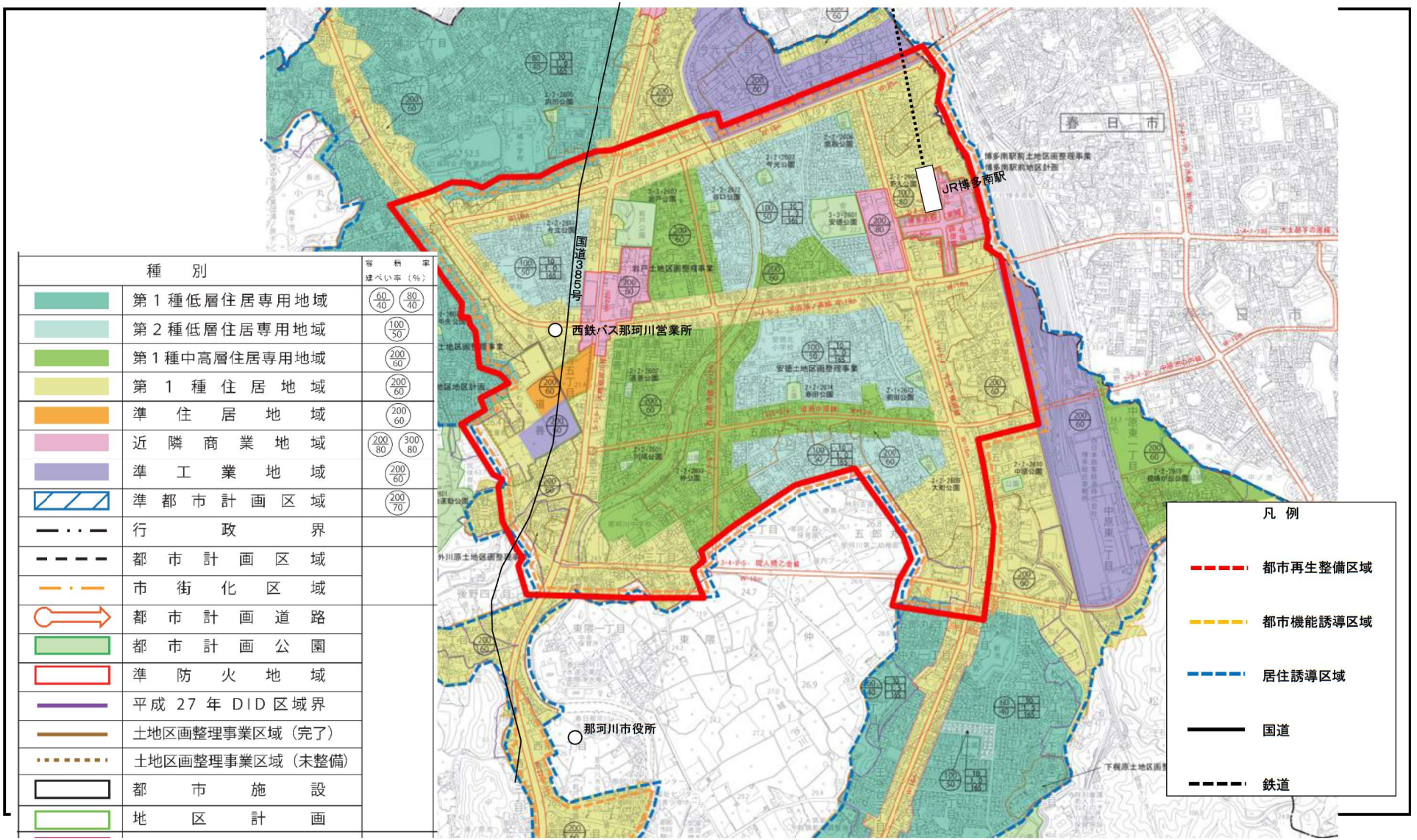
（参考）関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに○） 直轄	補助	地方単独	民間	事業期間 開始年度	終了年度	全体事業費
道善・恵子土地区画整理事業	道善・恵子地区	道善・恵子土地区画整理組合	国土交通省	9.3ha				○	R3	R7	2,355
合計											2,355

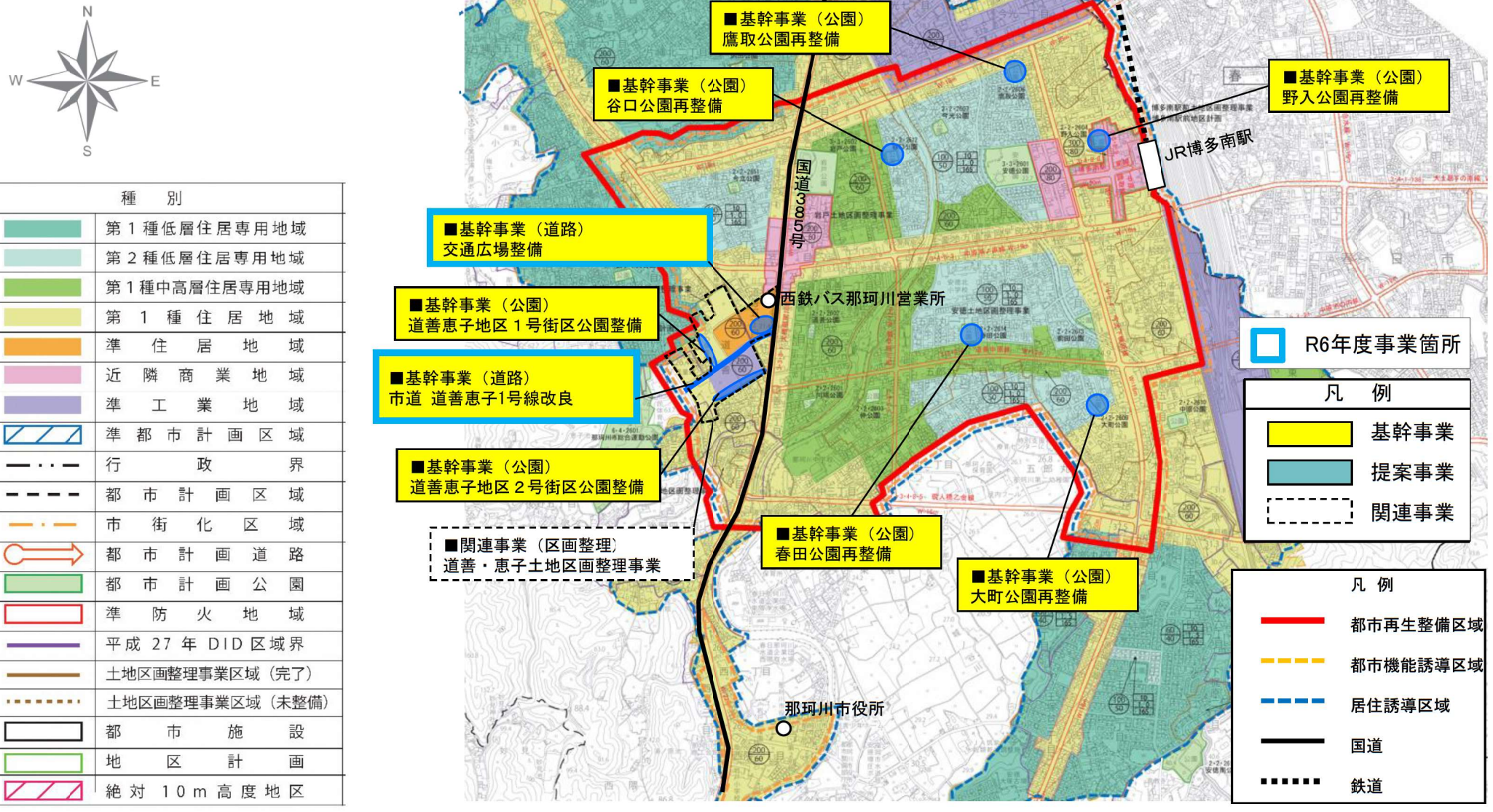
都市再生整備計画の区域

様式(1)-⑥

中心拠点地区(福岡県那珂川市)	面積	259.7 ha	区域	那珂川市片縄、片縄西、恵子、道善、後野、仲、五郎丸、王塚台、松木、松原、中原、今光の一部



種別	容積率 建ぺい率(%)
第1種低層住居専用地域	60/40 80/40
第2種低層住居専用地域	100/50
第1種中高層住居専用地域	200/60
第1種住居地域	200/60
準住居地域	200/60
近隣商業地域	200/80 300/80
準工業地域	200/60
準都市計画区域	200/70
行政界	
都市計画区域	
市街化区域	
都市計画道路	
都市計画公園	
準防火地域	
平成27年DID区域界	
土地区画整理事業区域(完了)	
土地区画整理事業区域(未整備)	
都市施設	
地区計画	

中心拠点地区（福岡県那珂川市） 整備方針概要図（都市構造再編集中支援事業）

目標	中心拠点に相応しい魅力ある市街地環境を形成し、誰もが安心して快適に暮らせるまちづくり 目標：都市機能誘導区域内における交通ネットワークの強化 目標：地区特性に応じた暮らしやすい環境の形成	代表的な指標	西鉄バス那珂川営業所の乗降者数 （人／年）	255,500	（R3年度）	→	298,237 （R8年度）
			コミュニティバスの利用者数 （人／年）	171,230	（R2年度）	→	257,900 （R8年度）
			住み続けたいと評価する市民の割合 （%）	53.5	（R3年度）	→	55 （R8年度）